

神奈川県高等学校文化連盟部門別育成強化・指導者研修実施要綱

1 目 的

高等学校における文化・芸術活動の向上・充実を図るという神奈川県高等学校文化連盟（以下「本連盟」という）の目的に基づき、その活動の一層の活性化を目指し、本連盟各専門部会の部門別育成強化を図るとともに指導者研修を実施する。

2 事業対象

- (1) 前項の目的を達成するために、本連盟の専門部会を「部門別育成強化部門」及び「指導者研修部門」に指定して実践する。併せて、本事業の円滑な運営を図るため、神奈川県高等学校文化連盟部門別育成強化・指導者研修検討委員会（以下「検討委員会」という）を設置する。
- (2) 指定部門の数はその都度検討委員会で定める。

3 事業内容

- (1) 部門別育成強化のため、次の事業を行うことにより、生徒の技術の向上を図る。

- ア 講習会
- イ 発表会
- ウ 演奏会
- エ コンクール
- オ その他、目的達成のための事業

- (2) 指導者研修のため、次の事業を行う。

- ア 講習会
- イ 講演会
- ウ 学習会
- エ その他、目的達成のための事業

- (3) 検討委員会の設置

4 経 費

本事業に係る経費は、神奈川県からの補助金及び本連盟予算をもって充てる。

5 事業期間

平成19年4月1日より平成21年3月31日までとする。

6 計画書・報告書の提出

各事業の部門に指定された専門部会は、「神奈川県高等学校文化連盟部門別育成強化計画書」（様式1-1）又は「神奈川県高等学校文化連盟指導者研修計画書」（様式1-2）を事業年度の4月20日までに、また、「神奈川県高等学校文化連盟育成強化報告書」（様式2-1）又は、「神奈川県高等学校文化連盟指導者研修報告書」（様式2-2）を2月末日までに提出する。

7 その他

この要綱に定めるもののほか、本事業の実施に関して必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、平成16年4月1日から施行し、平成19年3月31日をもって廃止する。

この要綱は、平成19年4月1日から再施行し、平成21年3月31日をもって廃止する。

2/12

神奈川県高等学校文化連盟部門別育成強化・指導者研修検討委員会の設置及び運営要領

1 趣 旨

神奈川県高等学校文化連盟（以下「本連盟」という）の活動の一層の活性化を目指し、本連盟各専門部会の部門別育成強化及び指導者研修を実施する。

2 設 置

前項の趣旨及び「神奈川県高等学校文化連盟部門別育成強化・指導者研修実施要綱」の3の（3）及び7に基づき、神奈川県高等学校文化連盟部門別育成強化・指導者研修検討委員会（以下「検討委員会」という）を設置する。

3 所掌事項

検討委員会は、前項の趣旨に基づき、以下の事項について検討し、実施する。

- ①各専門部会における育成強化及び指導者研修のあり方の検討及び実施
- ②各専門部会及び関係機関との連絡・調整
- ③その他本事業に係わること

4 組 織

（1）検討委員会は、以下の者をもって構成する。

- ①本連盟会長 ②本連盟理事長 ③本連盟副理事長 ④本連盟各専門部会理事

（2）委員長は、本連盟会長をもって充てる。

（3）委員長は、会務を統括する。

（4）検討委員会の効率的な運営のために、運営小委員会を設置する。運営小委員会は、以下の者をもって構成する。

- ①本連盟理事長 ②本連盟副理事長 ③年度における事業実施専門部会理事

5 会 議

（1）会議は、委員長が招集する。

（2）委員長に事故ある時あるいはやむを得ず欠席の場合は、理事長がこれを代行する。

（3）委員長は、必要があると認めるときは、構成員以外の者に会議への出席を求め、その意見又は説明を聞くことができる。

6 庶 務

検討委員会の庶務は、本連盟事務局において処理する。

7 その他

この要領に定めるもののほか、検討委員会の運営に関して必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要領は、平成16年4月1日から施行し、平成19年3月31日をもって廃止する。

この要領は、平成19年4月1日から再施行し、平成21年3月31日をもって廃止する。

神奈川県高等学校文化連盟部門別育成強化・指導者研修実施要項

1 目的

高等学校における文化・芸術活動の向上・充実を図るという神奈川県高等学校文化連盟（以下「本連盟」という）の目的に基づき、その活動の一層の活性化をめざし本連盟各専門部会における各部門のための研修を実施する。

2 対象

当該年度の育成強化専門部会及び指導者研修専門部会は、本連盟25部門の中から本連盟部門別育成強化・指導者研修検討委員会（以下「検討委員会」という）が指定する。

3 期間

平成19年4月1日から平成21年3月31日までの2ヵ年において、年度ごとの指定とする。

4 内容

(1) 育成強化

各専門部会の生徒を対象として、講習会や合同練習会などを通じ専門的な技術の習得と活動の活性化を図る。

(2) 指導者研修

各専門部会の指導者を対象として、研修会、講習会などを通じ専門的な技術や部員への指導方法について、その向上を図る。

5 事業報告

指定された育成強化専門部会及び指導者研修専門部会は事業報告を検討委員会に提出するとともに検討委員会は報告について検証し、次年度の活動の参考とする。

6 その他

本事業の計画ほか必要な事項は、検討委員会が別に定める。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行し、平成19年3月31日をもって廃止する。

この要項は、平成19年4月1日から再施行し、平成21年3月31日をもって廃止する。

正

部門別育成強化・指導者研修実施計画(平成19～20年度)

専門部会名	19年度		20年度	
	育成強化	指導者研修	育成強化	指導者研修
合 唱	◎			
吹奏楽				◇
器楽・管弦楽	◎			
美術・工芸			◎	
書 道				◇
写 真		◇		
文 芸			◎	
放送・情報	◎			
囲 碁				◇
将 棋			◎	
ボランティア				◇
かるた			◎	
鉄道研究	◎			
日本音楽		◇		
吟詠剣詩舞	◎			
郷土芸能		◇		
理 科				◇
演 劇		◇		
新 聞	◎			
アマチュア 無 線				◇
茶 道			◎	
弁 論				
社会科			◎	
軽音楽		◇		
マーチ・バト		◇		
合 計	6	6	6	6

- * 平成16～18年度の3年間の実績を踏まえ、「育成強化」と「指導者育成研修」を再度実施する。
- * 事前に計画書と経費要望書を、行事終了後に報告書を提出する。
- * これらに係る費用については、各専門部会行事補助費等を充てる。

平成18年度 神奈川県高等学校文化連盟 部門別育成強化・指導者研修報告書

	専門部会名	行 事 名	期 日	
育	1 書 道	書道専門部生徒委員会 実技講習会	7月21日(金) 7月22日(土) 8月25日(金)	①参加者数40人(10校) 会場 川崎市立商業高等学校 ②参加者数40人(10校) 会場 川崎市立商業高等学校 ③参加者数31人(10校) 会場 川崎市立商業高等学校 ○「臨書渉猟 漢字仮名」のテーマの下、「漢以前」「北魏」「東晋・随・唐・宋」「明・清」「平安」の5グループにわかれ、それぞれのグループで時代の背景と書体や書風の関係、作品同士の調和などを考えながら、縦240cm、横90cmの紙面に各自の作品を組み合わせる形式で臨書合作作品制作を行った。途中で、グループ単位での生徒相互の批評会や担当指導者による批評会を行った。できあがった作品は表装し、書道展にて展示した。 ◎普段指導を受けない他校の先生の助言、普段目にしない他校の生徒の作品制作風景を見ながらの練習は、各参加生徒の向上心を掻き立てたようで、出来上がった作品はかなり完成度が高まっていた。参加校数が10校と少ないが、これは書道部が活発に活動している校数が少ないこと、更にそこで実際に指導しているのが非常勤である場合、引率の関係で生徒を参加させることが難しいことがある。
	2 写 真	夏の勉強会 写真勉強会	7月25日(火) 3月24日(土)	1. 参加者数 61人(12校) 会場 日本丸訓練センター ○カメラマン北郷仁氏を講師に招き、講演後撮影会を実施した。生徒たちは熱心に取り組み、北郷氏に質問する姿も見られた。
	3 将 棋	県高校将棋生徒研修会	7月29日(土) 1月14日(日) 3月25日(日)	
	4 かるた	競技かるた練習会	5月28日(日) 7月8、15、 29日(土)	参加者数 52人(4回) 会場 秩父宮記念体育館 1. 基本的な動作の確認 2. 団体戦における試合の進め方等 ○学校内での練習では体験できない指導者の解説により、生徒により刺激となった。他校の生徒と団体戦を組むことにより、団体戦における試合の進め方の練習になった。
成	5 理 科	理科学部研修大会(地学巡検) 理科学部研修大会(天文) 理科学部研究発表大会	7月25日(火) 12月26日(火) 11月11日(土)	1. 参加者数 12人(4校) 会場 中郡大磯町 大磯海岸西小磯 ○大磯駅周辺にて地形の観察を行った後、民家の石垣に使用されている火成岩や堆積岩を観察して、それらの由来について説明を聞いた。その後、海岸へ移動し、貝などの化石を探し、観察を行った後に講師の説明を聞いた。 2. 参加者数 14人(4校) 会場 秦野南が丘高校 ○残念ながら悪天候になってしまい、予定していた天文台や望遠鏡など機材を用いた観測(研修)ができなかったが、そのかわり室内での研修を重点的に実施した。事前に撮影しておいた天体写真画像を素材にして、フォトショップで画像処理をする技術を学び、また、天体観測の様々な手法や、天体写真の撮影法などについて、座学を中心に午後から深夜まで講義を行った。 3. 参加者数 103人(18校) 会場 青少年センター ○自分の学校以外の研究発表を、しっかりとした態度で聞いた上で、助言者(審査員)の先生方(下記)の講評を伺うことにより、研究テーマの決め方、観察や実験の技能、方法、データのまとめ方、考察の仕方などについて学ぶことができ、成果があった。今回の大会に発表参加しない学校からも、出席があり(4校)有意義であった。また、当日参加できなかった学校に対しても、助言者(審査員)の講評を研究紀要にまとめ、3月末に全校に配布する。 ◎理科専門部の活動はそれぞれの部活(生物、化学、天文等)によって内容が大きく異なり、また同じ名称の部活であっても研究テーマが異なると、一緒に研修会や講習会を行うことが難しく、専門部による行事の設定にも例年悩んでいるところである。今回の事業では、①どの学校の生徒にとっても参考になる事業(研究発表大会)と、②専門度が高く、単独の学校では学びたくても簡単には取り組めない事業(研修大会)という2本柱で取り組み、成果が上った。
	6 演 劇	夏の演劇講習会	8月10日(木) ～11日(金)	参加生徒 約650名 会場 青少年センター 分科会形式で実施し、参加者は2日間で2つの分科会に参加した。 1. 演技(初級) 2. 演技(応用) 3. ジャズダンス 4. ヒップホップダンス 5. タップダンス 6. ボーカル ◎2日間とも最後に分科会ごとの発表会を行った。そのため2日目は講習が前日よりスムーズに進んだようだった。また、20名の講師陣による模範演技も生徒には大いに刺激になったようだった。
	7 茶 道	茶道専門部会夏季研修会	8月24日(木)	参加者数 約60名(10校) 会場 神奈川学園高等学校 1. 菓子作り講習会 2. 講演「茶道の歴史と四季のたのしみ」(国際茶道文化協会講師) ○午前中茶道のバックグラウンドである文化や歴史的背景、「道」としての心のあり方、四季折々の楽しみ方についての講演を聴き、昼食後、これから作る菓子の見本を利用して親睦茶会を行った。午後葛をつかった菓子を数種類作った。大変充実した1日であった。
	8 マーチ・バト	マーチングバンド講習会 バントフリンギ講習会 マーチングバンド・バントフリンギ発表会	6月11日(日) 6月24日(土) 25日(日) 1月8日(祝)	1. 参加者数 10人(2校) 会場 鎌倉女子大学岩瀬キャンパス 専門講師による動きの技術、打楽器の演奏技術の講習会 2. 参加者数 20人(3校) 会場 下野庭・小坪小学校、横須賀市北体育館 専門講師による技術講習会(バントフリンギ、カラーガード、打楽器) 3. 参加者数370人(10校) 会場 県立体育センター ・バントフリンギ講習会 発表会講師によるバトン・ポンポンの技術講習会 ○各校熱心に取り組み、発表会後も講師に指導を受けていた。 ・発表会での講師講評 ○講評を録音して各校へ配布した。曲やダンスに合わせて、それぞれの部分について講評を得ることができた。 ◎専門家による実技の講習は探求心の旺盛な生徒により刺激になった。発表会前の時間を利用した講習会は大会等の審査員の先生から直接指導を受けることができ、充実した時間であった。学校等への講師の派遣も考慮に入れて年2～3回の講習会を実施したい。

平成18年度 神奈川県高等学校文化連盟 部門別育成強化・指導者研修報告書

	専門部会名	行事名	期 日	
指導者研修	9 合唱	合唱指揮法講習会	11月18日(土)	参加者数 38人(6校) 会場 県立湘南高校 講師 日本合唱指揮者協会理事 松村努氏 1. 合唱指揮法の基礎(基礎振り、表現法) 2. モデル合唱団を指揮し、実習 ○受講者は講師のアドバイスに積極的な態度で臨み、指揮法の技術習得に努めていた。今後の指導で注意すべき点など参考になる点が多かった。
	10 器楽・管弦楽	弦楽器講習会	10月21日(土)	参加者数 88人(8校) 会場 県立川和高校 講師 バイオリン2名 ピオラ1名 チェロ1名 コントラバス1名 ○各楽器ごとに分かれ、それぞれの会場で講師が指導した。 ○生徒の評判もよく、講習後も質問する姿が多く見られた。専門家による大変有効な指導・助言と充実した内容で、有意義な講習会であった。講習申込者と講師数のバランスから締切日を早めに設定する必要がある。
	11 美術・工芸	第50回夏期美術講習会	8月8日(火) ～10日(木)	参加者数 44人(8校) 会場 箱根芦ノ湯温泉・松坂屋旅館 1. 講演会(講師イラストレーターの斉藤弥氏) 2. 野外スケッチの指導及び作品展覧会の実施 ○1. では発想力の高め方を2. では生徒の理解力を深めるために有意義な研修ができた。 ○専門家による分かり易い指導と教員相互による研修によって、有意義な機会を持つことができた。講習会で得た成果は参加した教員、生徒にとって、今後の創作活動に生かせることが期待できる。
	12 囲碁	大会運営顧問研修会	12月22日(金)	参加者数 17人 会場 大平荘 ○対局により棋力の向上と技術の習得を図った。また、学校間の情報交換をした。OBを招き、技術指導の研修を行った。 ○棋力とともに技術指導力の向上を図ることができた。
	13 ボランティア	介護体験研修	7月15日(土) 7月16日(日)	参加者数 21人(6校) 会場 特別養護老人ホームアロマ会「みなみ風」 1. 施設長あいさつ 2. SWの講演 3. 各ユニットに入って研修 ○1泊2日の宿泊研修により、ユニットケアの実践について学び、参加者相互の親睦を深めることができた。現場での介護と社会福祉援助技術の方法を学ぶことができ、充実した研修会となった。今後も継続して実施していきたい。
	14 鉄道研究	専門部指導者研修会	8月8日(火)	参加者数 10人(6校) 会場 都営地下鉄大島検査場 1. 講習会 2. 施設見学会 ○地下鉄におけるISO対策・安全輸送対策、列車の構造の講習及び施設(整備、検車、入出庫等)見学を実施した。 ○環境対策、安全対策、列車の構造など、今後の部活指導の材料となった。
	15 新聞	新聞顧問研修会 新聞夏季講習会	5月12日(金) 7月23日(日)	1. 参加者数 12人 会場 かながわ県民センター 講師 森下綾美氏(読売新聞社) ○写真記者として新聞制作の最前線で活動している講師により、紙面に掲載する写真撮影の方法、注意点などを研修した。デジタル化している写真の処理方法等、機材の使用などについても研修を受けた。 2. 参加者数 40人 会場 湘南学院山中湖セミナーハウス 講師 大内 文一氏(新聞教育研究所所長) ○学校新聞一筋に活動している講師により、学校新聞を作る上での心構えを中心とした講演を聞いた。さまざまな学校新聞を例にあげながら、あるべき態度や、陥りやすい誤った取り組みなどについて、詳しく説明を受けた。 ○学校新聞では写真の占める割合や重要性が増しているが、扱い方によっては偏った情報を提供することになり、慎重に、かつ大胆に扱うことの大切さを学ぶことができた。夏季講習会では、顧問としての姿勢を改めて考えさせられる内容であった。生徒も参加したが、非常に刺激を受け、新聞を作りたいという思いをさらに強くしたようである。学校新聞の発行を継続できるかどうかは、生徒はもちろん、顧問の力が大きいと考えている。従って、より多くの顧問に参加していただけることを期待したが、両会とも12名の顧問の参加に留まり、残念である。新聞活動の活性化のためにも、顧問の育成が今後の課題であると考えている。
	16 アマチュア無線	特殊無線技士受験講習会 第1級・第2級無線技士受験講習会	4月12日(水) ～6月7日(水) 9月13日(水) ～1月10日(水)	
	17 社会科	第40回社会科合同見学会 第41回社会科合同見学会	6月18日(日) 3月21日(祝)	

平成（ ）年度神奈川県高等学校文化連盟
部門別育成強化に係る行事計画書

専門部会名	専門部会
部会長名	
記載者名	

年 月 日

行 事 名	
実施予定日	年 月 日 ()
会 場	
趣 旨	
内 容 等	
行 事 名	
実施予定日	年 月 日 ()
会 場	
趣 旨	
内 容 等	

5万円

(様式1-1b)

〈育成強化用②〉

そめじり

平成()年度神奈川県高等学校文化連盟
部門別育成強化に係る経費要望書

専門部会名	専門部会
部会長名	
記載者名	

年 月 日

節	金額(千円)	積算内訳
報 償 費		
旅 費		
需 用 費		
役 務 費		
使 用 料		
合 計		

* 積算内訳は、「〇〇に係る講師謝金 〇〇千円×〇人」のように具体的に記載する。

(様式1-2a)

〈指導者研修用①〉

平成()年度神奈川県高等学校文化連盟
部門別指導者研修に係る行事計画書

専門部会名	専門部会
部会長名	
記載者名	

年 月 日

行 事 名	
実施予定日	年 月 日 ()
会 場	
趣 旨	
内 容 等	

行 事 名	
実施予定日	年 月 日 ()
会 場	
趣 旨	
内 容 等	

(様式1-2b)

〈指導者研修用②〉

平成()年度神奈川県高等学校文化連盟
部門別指導者研修に係る経費要望書

専門部会名	専門部会
部会長名	
記載者名	

年 月 日

節	金額(千円)	積算内訳
報 償 費		
旅 費		
需 用 費		
役 務 費		
使 用 料		
合 計		

*積算内訳は、「〇〇に係る講師謝金 〇〇千円×〇人」のように具体的に記載する。